

豊洲新市場 都議会生活者ネットワークの動き

豊洲問題について、都議会生活者ネットワーク（以下ネット）の取り組みの質問が寄せられました。地下空間存在の判明後の動きについては、報道に委ね、ここではネットの取り組み・主張について報告します。

<これまでの経緯と生活者ネットの対応>

- 豊洲新市場整備計画は石原都知事時代から。土壤汚染の判明後も、汚染対策の徹底を条件に進められた。
- ネットは、豊洲の土壤汚染の判明後の 2008 年、食の安全を第一義に、築地も環境的問題を抱えていたことから、晴海をその候補にと議会で提案。
- 2009 年の都議選後、見直し機運が高まる。翌年第 1 回都議会定例会で、市場会計予算は築地現地再整備を再検討するという付帯決議を付けかろうじて可決（ネットは豊洲移転の予算に反対）。その後、現地再整備案は合意に至らず。
- 2011 年 3 月予算特別委員会は、1 票差で予算が可決。ネットは、豊洲の土地取得費も含む市場会計予算に反対、特別委員会の継続を主張（ネットは、その後も 2012 年、2013 年市場会計予算に反対）。この予算には、多大な金を投じてでも環境対策を十分行うとの方針も含まれており、東京ガス工場創業時の地盤より下 2m の土を入れ替え、その上に 2.5m の盛り土を施すという提言（専門家会議報告書 2008 年 7 月）通りに進めることとされた。技術会議も設けられ（同年 8 月）、技術・工法の選択とその実行・完了を確認するという、それまでにない画期的な方法で対策がなされたはずであった（2014 年 11 月、技術会議に対しても、汚染対策工事が完了した旨報告された）。

食の安全第一に！真相の究明を！

ガス工場跡地で、環境基準の最大 4 万倍超のベンゼンが検出された汚染土壌の上に市場をつくるということに、そもそも無理がある。ネットは、地下空間が判明した直後、9 月 13 日と 14 日に水産卸売場棟と青果棟を視察し、地下に水がたまっている状況を確認。

都は、この問題が報道されるまで、盛り土の上に建物がある図をホームページに掲載し、都議会にも盛り土したと説明。たが、ガス操業当時の地盤より下 2m の土の入れ替えすら行っていなかった。

この間、環境基準を超える有害物質が検出され、地下空間の大气から水銀も検出された。知事は、土壤汚染に関する安全性についてプロジェクトチームを立ち上げ専門家会議も復活、調査・検証するとしている。

「最終的に安全性の確認は誰がどのように判断するのか」というネットの質問に、知事が総合的に判断すると答弁。食の安全という何にも代え難い価値をどのように確認していくのか。このままでは、豊洲移転を到底容認できない。

都の内部調査では、原因究明できず、今後、公益通報制度を活用して、誰の責任かを詰めていくとしている。経済・港湾委員会では、虚偽の報告で責任逃れを図ったことが判明。情報隠しで、誰が何を守ろうとしているのか。庁ぐるみの責任回避、隠蔽体質は許してはならない。

都議会の責任も問われており、ネットは議会の中で特別委員会の設置を強く主張し、超党派で構成する特別委員会設置を実現。ネットからは小松久子都議が参加する。これまでの関係者を含めて参考人を招致するなど、今回の問題を徹底究明し、安全性を検証していきたい。